

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
----	---	----

問二			
ら	を	せ	転
。	、	ず	園
	今	大	生
	ま	人	で
	で	の	ウ
見	よ	メ	
た	う	子	
こ	な	の	
と	挨	よ	
が	拶	う	
な	の	に	
か	で	お	
っ	き	ど	
た	る	お	
か	子	ど	22 23 24 25

問三	イ	26
問四	ア	27
問五	イ	28

問六	い	29
	ち	
	ば	
	ん	
	の	
問七	い	30
	さ	
	ぎ	
	よ	
	い	

問八	エ	31
問九	ウ	32
問十	イ	33
問十一	と	34
	て	
	つ	
	も	
	な	

2

問一	ウ	35
問二	A	
	文	
	字	
	B	(40字)
	言	
	語	
	を	
	話	
	す	
	人	36

5		4		3				
⑥ 毒 草 61	① 順 序 56	① ウ 51	④ 主 才 述 ア 52	① 主 イ 述 才 53	問八 ア 42	問七 A 集 団 が 大 き B 後 世 に 伝 え 41	問三 イ 37	
⑦ 守 備 62	② 賞 金 57	② エ 52	⑤ 主 イ 述 カ 49	② 主 × 述 イ ③ 主 工 述 カ 46	問九 ウ 43	問十 イ 44	問四 て き ま す 。	
⑧ 参 63	③ 責 任 58	③ ウ 53	(完巻) イ 述 カ 50	④ 主 工 述 カ 47	問十一 精 神 的 支 柱 45		問五 ウ 39	
⑨ 笑 64	④ 造 船 59	④ ア 54		(完巻) 工 述 カ 48			問六 イ 40	
⑩ 易 65	⑤ 停 止 60	⑤ 工 55						

(配点)
 { ①〔問二〕 8点、〔問八〕 2点、他各5点 }
 { ② 各5点 }
 { ③④⑤ 各2点 }
 } 計150点

【解説】

1 阿川佐和子『ウメ子』（小学館）から出題しました。人の顔色を窺って行動してしまう「私」が、自分の気持ちや信条に正直な「たくましくして自由」なウメ子に惹かれていく心情を読み取りましょう。

問一 B1 具体化 比較

「私」はお祈りの時間にも関わらず、「薄目を開けたまま、後方から近づいてくるウメ子」を見ています。すると——線①の直前に「耳元で」「前を向いて、目を閉じ」るよう注意する先生の声がして、——線①で「私の頭の上に」先生の手が置かれたとあります。そして、——線①の直後で「慌てて目を閉じた」とあるので、この注意は、お祈りの時間に後ろを向いて薄目を開けて様子を見ている「私」に向けたものだとわかります。「私」の態度をほめているア、お祈りに集中すべきだということにふれられていないイ・エは不適切です。

問二 B2 理由 推論

「驚く」という感情は、意外なこと、初めてのことに出口わしてびっくりすることです。ですから、驚きの理由を問われた時は、その直前に起きた「意外」「初めて」を答えればよいということになります。「くだと思っていたのにくだったから。」は初めてだったから。という形で記述するとまとまります。さて、この問いでは——線②の直後に「転園生で、こんなに偉そうに、落ち着いて挨拶のできる子を見たのは初めてである」とあります。この部分が答えに使えます。「偉そうに、落ち着いて」の部分直後の「大人みただ。おどお

どしていいない」の部分に言い換えてもかまいません。ポイントとは、①転園生ながらどうどうと挨拶するウメ子、②「私」がそんな転園生を見たのは初めてだったということ、の二点です。また、理由を聞かれてるので、文末は「〜から。」です。
※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問三 B1 関係づけ 比較

③の直前に「最初のうちは新しいところに慣れなくて」とあるので、ここには不安そうな様子を示す言葉が入ります。ですから、ア「いきいき」、ウ「にこにこ」などプラスのイメージの言葉は入りません。エ「めそめそ」は弱弱しく泣く様子を表した言葉ですから、これよりもイ「びくびく」がふさわしいでしょう。

問四 B1 具体化 比較

——線④の直前の「指図した」、——線④の「取り上げると、自分が教えてあげると言わんばかりに」という言葉に注目します。ここから、ユカちゃんのおしつけがましさを、友だちに対して先生のように命令する様子が読み取れます。また、その直後の先生への言いつけ方などを読むと、常に自分が優位に立ちたい子だともわかります。ですから、答えはアです。イ「自分勝手にふるまう」、ウ「心細そうなウメ子」、エ「みんなが…ちやほや」はここまでの部分からは読み取れません。

問五

B1 具体化 比較

——線⑤の直後、ウメ子は「靴をひったくつ」て取り返しています。それはウメ子には「自分のことは、自分でやる」という信条があつて、人にやつてもらつたり命令されたりするのが嫌なのでしよう。——線⑩の直後に、「遊ぶときは相手が女の子だろうと男の子だろうと、気に入らないことは『やらない』とはつきり言う」とあることから、自分の信条に合わないことはしないし、誰かに迎合しないというウメ子の性格が読み取れます。ですから、答えはイです。ア「申し訳なく」、ウ「みんなが；思っている」、エ「恥をかかせてやろう」の部分それぞれ本文中からは読み取れません。

問六

B1 具体化 関係づけ

——線⑥の「いつもこうなのである」の「こう」の内容は——線⑥の直後にしめされています。「半べそをかきながら先生のそばに駆け寄って；お得意の甘い声で、先生に言いつける。そして、自分がいちばんの被害者であるかのように、わざとらしく痛みをこらえた顔をしてみせるのだ。」の部分です。この部分から空欄にあてはまる言葉をぬき出しましょう。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

B1 具体化

ウメ子は先生に「乱暴しちゃ、だめよ」と注意されても、ただ「じつと先生を見せるだけで、一言も声を発しなかった」とあります。ユカちゃんを倒してしまったことに対して、この経緯を説明したり、乱暴するつもりはなかったと言いわ

けたりしていません。問われているのはこの態度をまわりの「クラスの子たち」はどう見たか、ということですが、クラスの子たちの反応は、**⑧**がある段落に書かれています。そこから、ウメ子の態度をあらわす一語を探しましょう。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

A2 知識 関係づけ

「そりや、先生はユカちゃんの**⑧**を持っていただけ、負けたのは明らかにユカちゃんのほうだ」とあります。先生はユカちゃんの言い分だけを聞いて、ウメ子に注意したので、ユカちゃんの味方をしたと言えます。「かたを持つ」は「味方をする」という意味の慣用語です。

問九

B1 具体化 比較

——線⑨の三行前の「ちえ」は、ウメ子が楽しそうに外で遊んでいるのに、自分はまだお弁当を食べなければならぬという状況がおもしろくない、という気持ちから出た「ちえ」です。では、——線⑨の心の中で言った「ちえ」はどのような気持ちから出たのでしょうか。直前にあるように、「聞こえないほどの小さな声で言ったつもりだったのに」先生に聞かれています。「女の子でしょ」と注意されたことに対する苦々しい気持ちからです。——線⑨の直後から「女の子らしく」と言われることに対する不満が書かれていることから、「私」にとつて、「女の子らしさ」を押し付けられるのはうっとおしいことだとわかります。小さな声で言ったのに聞かれていた、女の子らしさを押し付けられた、という二点にふれられている選

扱肢はウです。ア「頑張つても」、イ「さびしくてたまらなく」、エ「幼稚園の雰囲気がいやだ」の部分は本文中から読み取れません。

問十 B1 具体化 比較

——線⑩の直後にウメ子は「遊ぶときは：気に入らない」とは『やらない』とはつきり言う」とあります。相手がだれであろうと、嫌われるのがこわいなど考えずに自分の意思を貫くのです。ですから、答えはイです。ア遊びの好みを指摘しているわけではありません。ウ「弱い子には優しく：屈しない」とはここからは読み取れません。エ「不快にさせず上手に：断ることができる」の部分が不適切です。

問十一 B1 具体化 関係づけ

「私」は強い者に屈せず、自分がいいとか正しいと思ったことを貫くウメ子にロビンフッドを重ね合わせています。そして、この一文はそんなヒーローみたいなウメ子のもとに駆け出していつている、という描写です。自分のやりたいことを貫くウメ子のことをわたしがどのような子だと見ているかを本文中から探しましょう。——線⑩が含まれる段落はウメ子がどんな子か説明した部分ですから、ここから空欄にあてはまる言葉がぬき出せます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 山口仲美『日本語が消滅する』（幻冬舎）から出題しました。

話し言葉だけの言語は消滅しやすいだけではなく、話し言葉だけの言語を話す人は文字を持った民族から搾取や略奪の憂き目にあいやすいという事実がしめされています。文字は、話し言葉と違い、時間や場所を超えて残るものです。だからこそ、文字のある言語はそれを話す人がいなくなっても完全に消滅することはなく、略奪や搾取をするときの武器にもなるという文字の持つ力をきちんと押さえましょう。文の後半では文字が生み出される二つの状況について説明されています。問題提起（問いかけ）の文や、「第一に」「第二に」などの並列を示すつなぎことばに注目して、文章を整理しながら読みましょう。

問一 B1 具体化 比較

——線①を含む一文と前の一文は、倒置法が使われています。語順を戻すと、『言葉と枯葉は風によって運び去られてしまう』というバスク語のことわざ通りに、話し言葉は目に見えないし、瞬時に消えてしまうという宿命を負っています」となります。この瞬時に消えてしまうというのは、——線①直後の「完全に一過性のもので、空気中の振動がそれを伝える間しか留まらない」と同意です。「空気中の振動がそれを伝える」というのは、音声で伝える、ということですから、答えはウです。ア「人の心にはとどまらず」、イ「いらぬものだ」と見られて」の部分が本文からは読み取れません。エ「運び去られて」という比喩表現と関係がない選択肢です。

問二

B1 具体化 関係づけ

——線②を含む一文が「たとえば」で始まることから、線②は「その言語を話す人がいなくなってしまうと、(その言語は)この地上から跡形もなく消えてしまう」ということとの例だとわかります。また、話し言葉だけ、ということとは文字を持たない、ということと同意だということに気づくと、空欄は補充できるでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三

B1 関係づけ 比較

③で始まる段落は、パプアニューギニアで大量の話し言葉だけの言語が消滅しているということについて書かれています。③の前後の段落を見てみると、前では話し言葉だけのアポリジナルの言語が消滅していること、後ではインドネシアにおける話し言葉だけの言語が消滅していることについて書かれています。ですから、このつなぎことばは並列の「また」が入ります。

問四

B1 具体化 関係づけ

——線④の例は直後にある、アイヌの人々が和人(日本人)に騙され土地をとられた話です。読み進めていくと、⑥が含まれる段落の次の段落が「こうしたことは」から始まっており、ここからまとめがはじまっていると考えられますから、⑥を含む段落までが具体例だと考えられます。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 具体化 比較

借用書の内容については、——線⑤の次の段落の日本人店主の言葉の中に示されています。そこには、「借用書にはお前の土地を譲渡すると書いてあり、それに印鑑を押したのだから、その土地は既に俺の名義になっている」とあります。ですから、答えはウです。

問六

B1 関係づけ 比較

アイヌの人たちが印鑑を押してしまったのは、文字を持たず、借用書が意味を持つものであることに気づけなかったからです。文字が搾取・略奪の武器になるということを頭に入れて問題に取り組みましょう。

問七

B2 具体化

——線⑧の直後の段落が「では、文字は、どんな状況になると、生み出されるのでしょうか？」という問題提起の文から始まっていることに注目しましょう。この文は、ここから文字が生み出されるのはどんな時なのかの説明がはじまる、ということを示す文です。それを頭に入れて読むと、直後に「第一に：時」、——線⑩の次の段落に「第二に：時」とあることに気づくはずですよ。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B1 理由 比較

——線⑧を含む一文をよく読みましょう。「これも、人間は基本的には話し言葉があれば生活できることの証です」とあ

ります。「これも」証拠だ、と言っているのですから、「人間は基本的には話し言葉があれば生活できる」理由は二つ以上あり、そのうち一つは——線⑧の直前の一文の内容、話し言葉の歴史に比べ文字の歴史はごくわずかだということであることがわかります。そしてこの文が「また」で始まっていることから、直前にも理由があることがわかります。すると、「話し言葉だけの言語が、多数ある」という理由を見つけられるでしょう。この二つの理由がおさえられている選択肢はアです。イ「口伝えであますることなく伝えることができて」、ウ「意思疎通をはかる上で使いやすい」、エ「文字がないほうが心豊かに暮らすことができる」の部分が本文から読み取れません。

問九 B1 関係つけ 比較

空欄を含む一文を読みましょう。「話し言葉だけでやっている社会は、いずれも⑨ 集団で、⑩ 生活を営んでいきます」とあります。同段落にあるように、「話し言葉だけでやっている社会」は、「集団の人数が少なく、直接的な話し言葉だけで間に合う」社会です。この社会が「物質的にも豊か」かどうかは本文ではふれられていませんから、答えはウです。

問十 B1 具体化 比較

——線⑪の直後に「いずれも、国家規模の大集団の言語圏で発生した…文字は、こうした大集団を統率・維持するために生み出された」とありますから、答えはイです。ア「統率できる人間しか…生み出すことはできない」、エ「身分の高い人によって主に使われていた」は本文中から読み取れません。

ウの内容は、文字が生み出された第二の理由です。

問十一 B1 関係つけ

ある集団にとって、その「宗教や民族の起源」とは、どのようなものなのかを読み取りましょう。「宗教や民族の起源」という言葉をチェックしていくと、「その集団の精神的支柱になつてゐる民族の起源や宗教的事柄」「宗教や民族の由来に関わる事柄を書き表していることは、そうした集団の精神的支柱を後代に継承するため」などの表現を見つけることができるはずで

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

3 A2 知識

主語・述語の問題です。述語を見つけてから、主語となる「誰が」「何が」を考えるようにしましょう。

②「うれしかった」のは「私」ですが、この文では省略されています。

④倒置文です。本来の語順に直して考えましょう。述語は「お前だったのか」となり、誰が「お前だった」のかを考えると、「あわせたのは」が主語になると分かります。

4 A1 知識

ことわざ・慣用句の問題です。

- ① 舌をまく…ひどく感心する
- ② 手があく…仕事などが終わってひまになる
- ③ 目と鼻の先…非常に近いことのとえ

- ④ 立て板に水：つかえないですらすら喋ることのたとえ
- ⑤ 猿も木から落ちる：どんな名人でも失敗することがある
ということのたとえ